

目 次

1 発掘調査された寺跡	
石凝寺跡	1
法通寺跡	3
河内寺魔寺跡	9
旧額田寺跡	15
客坊魔寺(法性寺跡)	17
神感寺跡	24
旧往生院関連遺構	40
若江寺跡	45
巨摩魔寺	47
2 旧堂跡を残す寺	
興法寺	49
大龍寺	51
慈光寺	52
河内往生院伝承地	53
3 その他の魔寺	
正法寺跡	55
枚岡神社の神宮寺跡	56
八木寺跡	57
不動寺跡	57
雙龍庵跡	58
六万寺跡	58
浄土寺跡	59
多門寺跡	59
長楽寺跡	60
聖源寺跡	61
大蓮寺跡	61
東大阪市の魔寺一覧表	62
4 東大阪市の寺跡分布図	66

(カット写真)

表 紙 若江寺跡出土軒丸瓦
裏 表 紙 神感寺伝世品 居箱(唐招提寺蔵)

1 発掘調査された寺跡

石凝寺跡

『続日本紀』宝亀四年(773)

十一月条に石凝寺の名がみえ、また『行基年譜』には行基建立四十九院の一つとして「元正六年養老四年、石凝院九月十五日、在河内国河内郡早村」とみえます。早村は日下村に比定され、行基により養老四年(720)に創建された



石凝寺跡調査風景

石凝院が日下に所在したことが知られます。また、『教王護国寺文書』所収の永保元年(1081)「河内国石凝寺々地免判抄」には「河内郡早郷石凝寺敷地四町」とあり、平安時代に存続したことが知られます。寺跡の調査は昭和36年、日下墓地の南方一帯で大規模な宅地造成が行なわれるのに先立って、水田下に礎石らしい石が埋もれているという伝えのある日下町二丁目1444番地において行なわれました。その結果、地表下20～30cmに瓦の堆積がみつかり、幅1～2m・長さ7m・厚さ20cmほどで南北に直線をなしてのび、北西